

入れ歯安定剤 ポリグリップ

GSKヘルスパートナー主催 登録者限定無料 ウェビナー講演会

国内外の義歯安定剤ガイドラインに 関する現状と課題

演 者 日本大学松戸歯学部
有床義歯補綴学講座 教授 **河相 安彦 先生**

開催日時 **2022/8/26 (金)**
時間 19:30-20:15

※講演の後にQ&Aを設けております

〈20:20-20:30 GSKヘルスパートナーからのお知らせ〉





●視聴のためには
GSKヘルスパートナーへの
登録が必要です

※GSKヘルスパートナーへのご登録は、医療施設に所属されている歯科医師・歯科衛生士の方に限らせていただいております。

※GSKヘルスパートナーに新規登録される方は数日登録に時間を要する場合がございますので、早めの登録をお願いします。



iOS対応

●この配信は、iPhoneやiPadからでも視聴いただけます

コロナ禍のため中止になる場合もございます。最新の開催情報についてはGSKヘルスパートナー Web 講演会・イベント情報ページにて開催の有無についてご確認ください。



演者ご紹介

かわい やすひこ
河相 安彦 先生

日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座教授



略歴

1984年 日本大学松戸歯学部卒業
2005年 The University of Newcastle, Faculty of Health 修士課程修了
2007年 日本大学専任講師
2007年 McGill university Adjunct Professor
2010年 日本大学教授
2017年 日本大学FD推進センター副センター長
2020年 日本大学松戸歯学部付属病院病院長

学会活動

一般社団法人 日本老年歯科医学会理事
公益社団法人 日本補綴歯科学会理事

国内外の義歯安定剤ガイドラインに関する現状と課題

河相 安彦 先生

日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座教授

演者が臨床実習を行っていた40年近く前の無歯顎患者は若くて、元気で、無歯顎≒高齢者というイメージではなかった。しかしこの30年間で歯科医療を取り巻く環境は大きく変化している。平成28年歯科疾患実態調査によると無歯顎者の52%は80歳以上であり、1999年の調査時の20%から大幅な増加をしている。全身的にも社会的にも多様な無歯顎患者に対して、義歯の製作方法や調整方法も多様化する必要性が我々に課されているとも言えよう。

このような中、ホームケア・セルフケアの立ち位置で市場に流通している義歯安定剤も選択肢の一つではないだろうか。患者が義歯安定剤に求める効果は、痛みの軽減や義歯の維持・安定・安心感などと報告されている。一方、歯科医師には「負のイメージ」や「嫌悪感」が付き纏っているのではないだろうか。本邦で主に販売されている義歯安定剤はクッションタイプ、クリームタイプおよびパウダータイプの3種であるが、歯科医師がそれらと向き合っていくには、義歯安定剤に関する効果がどこまで明らかで、何が課題なのかを知る必要がある。

本セミナーではそれらの点を整理し、臨床に還元できる点はあるのか？を皆さんと考えてみたい。